

るつ記記念基金・創設30周年おめでとう！
ジュリエット・トンバド・アバリエントスのご家族から



ジュリエット(右から2番目)は第1回(1984年度)奨学生。教育学を専攻し英語教師になりました。そして今、1988年に設立したピソッグ財団(*1)の理事長として、ハイスクール生の奨学金を支援する活動も続けています。昨年、チャイルド・ファンド・ジャパンが呼びかけてくださりフィリピン各地の奨学生やセンターなどから42通のお祝いメッセージをいただきました。その中からジュリエットの幸せいっぱいのご家族からいただいたカードとメッセージ(抜粋)をご紹介します。

親愛なる日立教会ならびに
るつ記記念基金の皆様

この度は、創設30周年、誠にありがとうございます。

るつ記記念基金は、素晴らしいお働きと共に30周年という記念すべき大きな節目の時をお迎えになられました。私、ジュリエット・トンバド・アバリエントスはるつ記記念基金の最初の奨学生として、皆さまの変わらない愛とご奉仕を非常に誇りに思い、また圧倒される思いです。皆さまは神様の愛のゆえに、一つとなって犠牲をいとわずに、文化、伝統、信条の違う人々との懸け橋となってくださいました。皆さまは、私たちフィリピン人の生活に光、希望を下さいました。私とその生き

た証人の一人です。皆さまの愛と献身は、私たちの「希望の種子」でした。私たちるつ記記念基金の奨学生は、今や大きな木に成長した種子です。今度は私たちが、同じように他の人々に生活と慰めを分かち合っています。

・・・私は今46歳になり、教師であると共に3児の母親でもあります。決して平坦ではないこの地上の人生の歩みの中で、私はいつもどうすれば皆さまが教えてくれたような良いクリスチャンになれるかを思い起こすようにしています。・・・

心を込めて

ジュリエット・トンバド・アバリエントス

(訳：金丸公春)

(*1) 「ピソッグ」はジュリエットが住むナガ市で話されているピコラーノ語で「種」という意味です。